

## ごあいさつ



国立大学法人鹿屋体育大学  
スポーツパフォーマンス研究センター センター長

前田 明

令和元年度のスポーツパフォーマンス研究センターにおける実績をご報告いたします。

本センターは、スポーツパフォーマンス研究棟としてスタートして5年目に突入し、徐々に学内外の多くの方に利用していただくようになりました。

令和元年度は、前半からスポーツパフォーマンス研究に関する研究活動をはじめ、オリンピック・パラリンピック東京大会、かごしま国体に向けたアスリートなどで賑わっておりましたが、年度の終盤に、新型コロナウイルスの影響が本センターにも現れ、年度末の予約は多くがキャンセルになってしまうという残念な状況となってしまいました。この新型コロナウイルスの状況は、令和2年度も続いておりますが、大きな大会の開催が危ぶまれる中、少しでも本センターがアスリートのパフォーマンス向上、モチベーションの維持に協力できればと考えております。幸いにも大きな空間をもつスポーツパフォーマンス研究センターは、測定スケジュールを工夫することにより、十分三密を避けることが可能です。今後、状況が好転した際は、また多くの方々のご利用をお待ちしております。

そんな難しい中であっても、令和元年度の本センターの利用者は、前年度の6382人から大きく増加し、1万人を超える数となりました。利用内容の詳細も記載しておりますので、ご参照ください。ご利用いただいたすべての皆さんに感謝申し上げます。

これからも、まずはスポーツパフォーマンス研究の推進を第一に、粛々と研究活動を進めてスポーツ界に還元すること、さらに本センターの多様なニーズや利用されるの方々のご意見に真摯に耳を傾け、より利用しやすい環境作りを心がけて参りたいと存じます。

今後とも皆様のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。